

お知らせ

会員各位

会員各位からの投票に基づき、下記の方々を2024~2025年度代議員として選任いたしました。「公益社団法人日本分析化学会 代議員選挙規則」第12条に基づき公告します(代議員選挙規則 第12条 会長は、選任した代議員を、すみやかに本会会誌に公告しなければならない)。

会長 山本博之

会田 秀樹 (都産業労働局)	青木 寛 (産 総 研)	旭井 由紀 (富士フィルム和光純薬)
安達 健太 (山口大院創成科学)	壹岐 伸彦 (東北大院環境)	石川 隆一 (アジレント)
石田 康行 (中部大応用生物)	石濱 泰 (京 大 院 薬)	板橋 大輔 (日 本 製 鉄)
伊藤 彰英 (麻布大生命環境)	稲川 有徳 (宇 都 宮 大 工)	井上 高教 (大 分 大 理 工)
植田 郁生 (山 梨 大 工)	上田 真史 (岡山大院医歯薬学)	上野 貢生 (北 大 院 理)
植松 宏平 (福井県大生物資源)	内嶋 茂 (三菱ケミカル)	内山 朋幸 (日鉄テクノロジー)
宇野 文二 (岐阜医療科学大薬)	梅林 泰宏 (新潟大自然科学)	遠藤 昌敏 (山形大院理工)
大塚 克弘 (ムラタ計測器サービス)	岡村 浩之 (原子力機構)	奥山 修司 (愛 知 県 警)
越智 一志 (住友金属鉱山)	加賀谷重浩 (富山大学術研究)	片山 佳樹 (九 大 院 工)
勝又 啓一 (製品評価技術基盤機構)	金子 聡 (三 重 大 院 工)	金田 隆 (岡山大院自然科学)
紙谷 浩之 (広島大院医系科学)	北川 慎也 (名 工 大 院 工)	北川 文彦 (弘前大院理工)
吉川ひとみ (科 警 研)	木村 廣美 (千 歳 科 学 大)	紀本 岳志 (紀 本 電 子)
国村 伸祐 (東 理 大 工)	熊谷 礼子 (DOWAテクニカ)	栗原 誠 (静 岡 大 教 育)
桑田 啓子 (ブルカージャパン)	坂元 秀之 (日立ハイテクサイエンス)	佐藤 久 (北 大 院 工)
佐藤 博 (長崎国際大薬)	澤津橋徹哉 (三 菱 重 工)	敷野 修 (パーキンエルマー・ジャパン)
四宮 一総 (日 大 薬)	島田亜佐子 (原子力機構)	白井 理 (京 大 院 農)
末吉 健志 (阪 公 大 院 工)	菅沼 こと (帝 人)	菅原 一晴 (前 橋 工 大 工)
鈴木彌生子 (農 研 機 構)	宗林 由樹 (京 大 化 研)	高橋あかね (オ ル ガ ノ)
高橋由紀子 (長 岡 技 科 大)	高橋 豊 (エムエス・ソリューションズ)	高原 晃里 (リ ガ ク)
高椋 利幸 (佐 賀 大 理 工)	竹澤 正明 (東レリサーチセンター)	竹田 一彦 (広島大院統合生命科学)
武守 佑典 (島 津 製 作 所)	巽 広輔 (信 州 大 理)	田村 耕平 (日 本 分 光)
茶山 健二 (甲 南 大 理 工)	辻 幸一 (阪 公 大 院 工)	遠田 浩司 (富山大院理工)
富永 昌人 (佐 賀 大 理 工)	豊田 太郎 (東大院総合文化)	永井 秀典 (産 総 研)
仲川 清隆 (東北大院農)	永嶋 仁 (JFEテクニカ)	中村 圭介 (産 総 研)
中山 紀行 (レゾナック)	西 直哉 (京 大 院 工)	西澤 精一 (東北大院理)
西島 喜明 (横 浜 国 大 工)	西村 一彦 (北海道立衛生研)	沼子 千弥 (千 葉 大 理)
萩森 政頼 (武庫川女子大薬)	長谷川 浩 (金沢大物質化学)	浜瀬 健司 (九 大 院 薬)
林 英男 (都産技研センター)	原田 芳文 (日立ハイテクフィールドイング)	半田友衣子 (埼 玉 大 工)
久本 秀明 (阪 公 大 院 工)	平岡 章二 (三井化学分析センター)	福原 学 (東 工 大 院 理)
藤村 務 (東北医薬大薬)	淵上 剛志 (金沢大医薬保健)	古庄 義明 (ジーエルサイエンス)
堀池 則子 (旭 化 成)	前田 耕治 (京工織大工芸科学)	牧 秀志 (神 戸 大 院 工)
松井 利郎 (九 大 院 農)	松森 信明 (九 大 院 理)	南 尚嗣 (北見工大社会環境)
南木 創 (産 総 研)	三原 義広 (北海道科大薬)	宮下 隆 ((元)キューピー)
村松 康司 (兵庫県大院工)	森 勝伸 (高知大教育)	森内 隆代 (阪 工 大 工)
森岡 和大 (東 薬 大 薬)	森田耕太郎 (東 邦 大 理)	森田 成昭 (大阪電気通信大工)
安川 智之 (兵庫県大院理)	藪谷 智規 (愛媛大社会連携推進)	山崎 真吾 (日 本 製 鉄)
山本 隆裕 (住 友 化 学)	由井 宏治 (東 理 大 理)	吉田 達成 (バイオタージ)
李 宣和 (東北大院薬)	渡辺 壱 (フロンティア・ラボ)	渡邊 俊哉 (日立ハイテク)

公益社団法人日本分析化学会 第13回定時総会開催のお知らせ

公益社団法人日本分析化学会
会長 山本 博之

公益社団法人日本分析化学会定款第17条に基づき、第13回定時総会を下記のとおり開催いたします。本会は代議員制を採用しており、代議員をもって法律上の社員としますので、代議員以外の会員の方々には議決権はありませんが、定時総会に出席して意見を述べることができます。今回はWeb会議方式で開催しますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご出席の場合は、e-mailにて、会員氏名、会員番号、連絡先（住所、e-mailアドレス）を明記のうえ、4月5日（金）までに下記問い合わせ先にお送りください。

第13回定時総会

期日 2024年4月26日（金）14時～16時

会場 Web会議（日本分析化学会会議室）

議案

- 2023年度事業報告及び決算報告承認の件
- 役員の一部辞任及び2024～2025年度役員承認の件
- 定款の一部変更承認の件
- 永年会員推薦承認の件
- 2024年度事業計画及び収支予算報告の件

問合せ先 （公社）日本分析化学会総務課

[E-mail : shomu@jsac.or.jp]

2024年度CERIクロマトグラフィー分析賞 受賞候補者の推薦

液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会（以下、LC懇）は、2024年度のCERIクロマトグラフィー分析賞受賞候補者の推薦を受け付けます。LC懇会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規程（抜粋）を参照のうえ、推薦資料提出先にお申し出ください。受賞者には、LC懇の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」（通巻第9号、2024年12月15日発行予定）への業績投稿とともに、第30回LC&LC/MSテクノプラザ（2025年1月を予定）での受賞講演を行っていただきます。

第1条 本賞は、LCを利用した研究分野で優秀な研究成果を挙げた者を対象に、年1件以内に授与する。

第3条 受賞者の資格に年齢は問わないが、LC懇の会員であることが望ましい。

また、受賞者の研究成果は、既印刷のもので、少なくともその一部が公益社団法人日本分析化学会の機関誌もしくは学術刊行物に掲載されたものであることを要する。

第7条 賞の授与は、LC&LC/MSテクノプラザにおいて行う。受賞者には、賞牌および賞金（10万円）を授与する。

提出資料 推薦者（会員番号明記）は、A4判サイズに横書きで記入した以下の4種類の資料（各1通）を1ファイルにまとめ、8月末日までに下記提出先に電子メールで送付する。
①候補者の生年月日および高校卒業後の履歴書、②推薦理由書、③研究業績名（40字以内）およびその概要、④研究業績リスト：表題、全著者名（受賞候補者にアンダーライン）、雑誌名、巻数、掲載ページ数、掲載年をこの順に記載

したもの、⑤その他、適当と思われる資料（1件）を提出してもよい。

推薦資料提出先 CERIクロマトグラフィー分析賞係
[E-mail : nakamura@jsac.or.jp]

2024年液体クロマトグラフィー科学遺産 認定候補の推薦

LC研究懇談会（LC懇）会員で、LC科学遺産認定候補の推薦を希望される方は、下記の規程（抜粋）およびLC懇ホームページを参照のうえ、2024年8月末日までに推薦書類を提出先にお送りください。なお、認定が決定されたLC科学遺産については、第30回LC&LC/MSテクノプラザ（2025年1月を予定）において、当事者から申請内容の概要を発表もしくは展示していただくと同時に、LC懇の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」（通巻第9号、2024年12月15日発行予定）への投稿を行っていただきます。

第2条 「液体クロマトグラフィー科学遺産」とは、日本における液体クロマトグラフィー（LC）の発展にとって、歴史的な観点から顕著な貢献があったと認められるものを指す。

2 「液体クロマトグラフィー科学遺産」は、年度ごとに1件以内を認定する。

3 装置・器具類においては、その動作原理が日本初もしくはそれに準じたものであること、またはその性能が従来のものより格段に優れていることを要する。

4 技術・方法においては、従来のものより効率、再現性、操作性などが格段に優れていることを要する。

5 無形遺産については、当該分野の維持・発展において顕著な社会的あるいは歴史的貢献と認定されるもの。

推薦書類 A4判サイズに横書きで記入した以下の書類（各1通）を、1ファイルにまとめたもの。①推薦理由書（会員番号明記）、②LC科学遺産候補の名称（40字以内）とその概要、③LC科学遺産所有者名、④その他、適当と思われる資料（1件）を提出してもよい。

提出先 LC科学遺産認定委員会

[E-mail : nakamura@jsac.or.jp]

2025年液体クロマトグラフィー努力賞の推薦

本賞は、液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会（以下、LC懇）が授与する褒賞で、LCに関する研究・技術が独創的であり、将来を期待される研究者・技術者を授賞の対象としております。適当な候補者がおられましたら、下記要領にてご推薦またはご応募ください。受賞者には第30回LC&LC/MSテクノプラザ（2025年1月を予定）における受賞講演、並びにLC懇の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」（通巻第9号、2024年12月15日発行予定）への業績投稿を行っていただきます。不明な点は下記にお問い合わせください。

受賞資格 LC懇の個人会員（会員番号明記）で、2025年4月1日現在で満50歳程度まで。

提出資料 ①推薦書または自薦書（A4判サイズ1枚に生年月日、簡単な履歴、受賞の対象となる研究題目）、②推薦または応募理由書（A4判を縦に使用し、1行45字、40行程度で業績説明と主要論文リストを合わせて3枚以内）、③説明資料1件（任意。特に重要な論文の別刷PDF、その他審査

の参考となる資料等)を1ファイルにまとめ、下記提出先に電子メールで添付。

推薦・応募締切 2024年8月末日

提出・問合せ (公社)日本分析化学会・LC懇
[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

2024年POTY賞受賞候補者の推薦

液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会(以下、LC懇)は、2024年POTY(Person of The Year)賞受賞候補者の推薦を受け付けます。POTY賞はLC懇の発展に大きく貢献した者に授与しますが(副賞1万円、年度1件以内)、CERIクロマトグラフィー分析賞並びに液体クロマトグラフィー努力賞の受賞者を授与の対象としません。推薦を希望される方は、下記2点に留意され、資料を電子ファイル(1ファイル)で提出してください。なお、受賞者にはLC懇の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」(通巻第9号、2024年12月15日発行予定)への投稿とともに、第30回LC&LC/MSテクノプラザ(2025年1月を予定)における受賞講演をお願いいたします。

1. 受賞者の年齢は問わないが、LC懇の会員であることが望ましい。
2. 推薦者(または自薦者)は、LC懇の個人会員とする。

提出資料 推薦者等は、A4判サイズに横書きで記入した以下の①~③の資料を、8月末日までに下記提出先に電子メールで送付してください。①履歴書(生年月日、現住所、勤務先と連絡先、高校卒業以後の履歴を含む)、②推薦理由書、③貢献業績(40字以内)およびその概要。

資料提出先 LC懇POTY賞係
[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

第393回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

後援 (公社)日本薬学会、(公社)日本化学会、(公社)日本農芸化学会、(公社)日本分析化学会

近年有機フッ素化合物(PFAS)に対する環境規制が世界各地で強化されています。本例会では液体クロマトグラフィーを活用したPFAS分析において注意すべきポイント、各社の最新の取り組みについてご講演いただきます。

期日 2024年3月22日(金)13.00~16.50

会場 (株)日立ハイテクサイエンス サイエンスソリューションラボ東京〔東京都中央区新富2-15-5 RBM築地ビル、交通:東京メトロ有楽町線「新富町」駅より徒歩1分(5番出口利用)、東京メトロ日比谷線「築地」駅より徒歩4分(4番出口利用)、JR京葉線、東京メトロ日比谷線「八丁堀」駅より徒歩8分(A3出口利用)
<https://www.google.com/maps/search/?api=1&query=35.671216%2C139.775152>

講演主題 PFAS分析の為のHPLC

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)
(ジエールサイエンス(株)太田茂徳
(LC分析士初段)

1. PFAS分析における超純水の役割と超純水製造装置によるPFAS除去試験のご紹介(13.05~13.40)
(メルク(株)石井直恵

- (LC分析士二段)
2. 超短鎖PFASとレガシーPFAS分析におけるカラム選択アプローチの違い(13.40~14.15)

(Restek(株)海老原卓也
(LC分析士二段)

3. PFAS分析におけるサンプル前処理の最適化(14.15~14.50)

(日本ウォーターズ(株)島崎裕紀
(LC分析士三段、LC/MS分析士二段)

休憩(14.50~15.10)

4. 環境分野におけるPFAS分析の最新情報(15.10~15.45)
(アジレント・テクノロジー(株)城代航
(LC分析士初段、LC/MS分析士初段)

5. 環境水や水道水のPFAS分析条件の検討(15.45~16.20)
(栗田工業(株)榎本幹司
(LC分析士三段、LC/MS分析士三段)

6. 総括「PFAS分析の為のHPLC」(16.20~16.50)

(東京理科大学)中村洋
(LCマイスター、LC/MSマイスター)

参加費 ①LC研究懇談会・個人会員:1,000円、②LC研究懇談会・団体会員:2,000円、③後援学会・個人会員:3,000円、④後援学会・団体会員:4,000円、その他:5,000円、学生:1,000円、参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します(会費5,000円)。参加申込締切後のご参加はできませんので、ご了承ください。

申込締切日 3月15日(金)(入金締切時刻:15時まで)

申込方法

1. 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC会員:協賛学会会員・その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
2. お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第393回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。
3. 申込受付メールを受領後、必ず期限内に参加費の納入を行ってください。期限内に参加費納入が確認できない場合、参加申込みを無効としますので、十分ご注意ください。なお、一旦納入された参加費は、返金いたしません。
4. 参加費の納入が確認できた方には、2024年3月16日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。なお、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

1. 複数例会の参加費の同時振込(→例会ごとに振り込んでください)
2. 複数参加者の参加費の同時振込(→参加者ごとに振り込んでください)
3. 年会費や他の費用との合算振込(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/aTToaLzyTVsAAXXD>

(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341 口座名義:シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合せ先 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 ジエールサイエンス(株)太田茂徳

[E-mail : sig-ota@gls.co.jp]

第 21 回生涯分析談話会へのお誘い

主催 生涯分析談話会

協賛 LC 研究懇談会

生涯分析談話会は、日本分析化学会 (JSAC) 会員で定年退職された方々と現役のシニアの方々を中心となり、定年後の再出発や趣味の道に活力をもって生き生きと過ごし、JSAC の発展に資するために組織されました。第 1 回を日本分析化学会第 59 年会の初日 (2010 年、東北大学) に開催して以来、毎年、年会の初日に開催してまいりました。また、第 9 回を第 78 回分析化学討論会 (山口大学常盤キャンパス) の前日 (2018 年) に開催して以来、年に 2 回 (分析化学討論会前日と分析化学会年會初日) 開催地区の重鎮の先生方に講演をお願いし、情報交換会を開催して参加者の親睦を図っております。

さて、標記の第 21 回生涯分析談話会は今年の第 84 回分析化学討論会 (京都工芸繊維大学) にリンクして開催いたしますが、これまでとは異なり討論会の初日に開催することとなりました。奮ってご参加くださるよう、よろしくお願いたします。

なお、未定の部分は決まり次第、LC 研究懇談会のホームページでお知らせいたします。

会長：中村 洋

日時 2024 年 5 月 18 日 (土) 夕刻

会場 京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス

[京都市左京区松ヶ崎橋上町 1]

講演

講師 木村 優 (奈良女子大学名誉教授)

題目 私のやり残した研究—リン酸ラジカル

情報交換会 18 時～ (第 84 回分析化学討論会の懇親会に合流して開催するため、参加者数に定員がございます。討論会の実行委員会 Web から早目に登録をお願いいたします)。

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jsac84touron/top>

会場 ホテルオークラ京都

申込先 幹事：田端正明 [E-mail : tabatam@cc.saga-u.ac.jp]

—以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

表面科学セミナー 2024 (実践編) 基礎と実用例を通じてこれから学ぶ インフォマティクス

主催 (公社)日本表面真空学会

期日 2024 年 3 月 14 日 (木)

会場 大田区産業プラザ PiO 特別会議室およびオンライン

ホームページ <https://www.jvss.jp/jpn/activities/06/detail.php?eid=00017>

連絡先 113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 5 階 (公社)日本表面真空学会事務局

[電話：03-3812-0266, E-mail : office@jvss.jp]

日本顕微鏡学会第 80 回学術講演会

主催 (公社)日本顕微鏡学会

期日 2024 年 6 月 3 日 (月)～5 日 (水)

会場 幕張メッセ・国際会議場

ホームページ <https://conference.wdc-jp.com/microscopy/conf2024/index.html>

連絡先 169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-21-13 廣池ビルディング 402 (公社)日本顕微鏡学会事務局 崔 由美

[電話：03-6457-5156, E-mail : jsm-post@microscopy.or.jp]

電子機器トータルソリューション展 2024

主催 (一社)日本電子回路工業会

期日 2024 年 6 月 12 日 (水)～14 日 (金)

会場 東京ビッグサイト東展示棟

ホームページ <https://www.jpcashow.com/show2024/jp/exhibition/index.html>

連絡先 (株)JTB コミュニケーションデザイン内 運営事務局

[電話：03-5310-2020, E-mail : jpcashow@jtbcom.co.jp]

第 34 回環境工学総合シンポジウム 2024

主催 (一社)日本機械学会

期日 2024 年 7 月 17 日 (水)～19 日 (金) (17 日は見学会のみ)

会場 高野山大学

ホームページ <https://www.jsme.or.jp/env/symp/sympo-info2024/index.shtml>

連絡先 162-0814 東京都新宿区新小川町 4-1 KDX 飯田橋スクエア 2 階 (一社)日本機械学会 環境工学総合シンポジウム 2024 事務局 橋口

[E-mail : kankyosympo2024 @ jsme.or.jp]

第46回溶液化学シンポジウム

主催 溶液化学研究会
 期日 2024年10月23日(水)~25日(金)
 会場 千葉大学けやき会館
 ホームページ <https://sites.google.com/view/sscj46chiba/>
 連絡先 263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
 千葉大学大学院理学研究院化学研究部門
 分子分光学研究室内 城田秀明
 [電話:043-290-3983, E-mail:sscj46chiba@gmail.com]

「分析化学」年間特集「分」の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し、節目の15年目に当たる2024年は「分」をテーマとすることと致しました。

本特集では「分」をキーワードとして、基礎・応用を含めた分析化学の“最新の知見”はもちろん、総合論文や分析化学総説といった形で現在の分析化学の“研究の背景”についても広く募集し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第73巻(2024年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「分」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の10・11号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象:「分」に関連した分析化学的な基礎・応用研究に関する論文。例を以下に示します。

- 1) 環境水や体液といった液体試料を分析するための前処理分離に関する研究、2) さまざまな物質中から測定対象物質を分離抽出する技術に関する研究、3) 環境からの有害物質の除去・有用物質の回収に関する研究、4) クロマトグラフィーに関する基礎・応用研究、5) 分離のシミュレーションを活用した分析化学的研究、6) 生体サンプル中のバイオマーカー検出に関する研究。

特集論文原稿締切:2024年4月26日(金) (第3期)

初めて書く論文は母語の日本語で!
 「第23回若手研究者の初論文特集」募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2024年(第73巻)に第23回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目:「技術紹介」
2. 対象:以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、3) 分析機器および分析手法の応用例、4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性:本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先:日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail:bunseki@jsac.or.jp]

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月 25 日（例：1 月号掲載→11 月 25 日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。か、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。
(後援又は協賛)
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020 年 4 月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdf ファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が 14 ページ以上は一律 80,000 円）

会員外の場合：40,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が 14 ページ以上は一律 90,000 円）

* 上記に消費税がかかります。